

2026年度						授業の計画				
学年	教科	科目	コース	単位	担当者	学期	月	教材	内容	
2年	国語	論理国語	選抜	2	小平	1	4	「手の変幻」	<ul style="list-style-type: none"> ・逆説的表現の理解 ・近代の概念の理解 ・その他入試過去問演習 	
教科書	数研出版「論理国語」									
副教材	『708論理国語準拠ワーク』(数研出版),『入試頻出漢字+現代文重要語彙TOP2500三訂版』(いいずな書店),『イラストとネットワーキングで覚える 現代文単語 げんたん 改訂版』(いいずな書店),『評論速読トレーニング1500』(数研出版)							「弱いつながり」		
評価基準	観点① 知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の書き取り・読み取り、語句の知識が身についている。 ・文章構成の理解する(文や文章の効果的な組み立てや接続の仕方の理解)。 ・情報の扱い方を理解する(情報の重要度による整理、推論)。 						※漢字TOP2500P124~P151		
	観点② 思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を的確に理解し、自分の考えを深め、他者に伝えられる表現力。 ・文脈を捉え、自分の知識を踏まえて文意を理解しようとする。 					5	中間考査		
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を聞き、与えられた課題、自分で発見した課題に取り組み、ノートの内容を工夫する。 ・グループワークやペアワークに積極的に参加して、他者と協働して問題解決を図ろうとする。 ・ワーク等の提出物をしっかりと管理し、成果物を提出する。 					6	『『内的成長社会』へ』 「胆力について」		
	考査	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。								
	評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50 + 観点②学年末50 + 観点③ 10								
	テスト・評価の内訳	観点①	漢字の書き取り等、語句等の知識、選択肢(接続語、段落相互の関係、傍線部前後からの文脈・文意の読み取り、同値・逆接等の把握、等)							中間考査
	観点②	演習問題・記述式 (内容理解、主張の把握、傍線部・文の言い換え、適語・適文の抜き出し脱文補充等)						「日本語は非論理的か」 「白紙」		
	観点③	①予習②感想・まとめ ③課題(小テスト) ④授業姿勢(各5点)								
授業のねらい・進め方・注意点	文章を自力で正しく読解する力を養っていくことを主眼とする。教科書を主に用いて、様々な文章を読み、教養や知識を深めていく。抽象的な概念の理解やそれに対応する具体例を自分の力で考えながら読解することができる力を身につける。語彙力を強化するために漢字テストを適宜実施する。また自分の考えを他者に伝え、また他者の考えを理解するためにもペアワーク等には積極的な姿勢で臨むことを期待する。スケールテストやその先で求められる学力を身につけていく。									
家庭学習	学習内容と進め方	漢字『TOP2500』～P175(第二章重要語ランクCまで)を2周する。					3			『『安楽』への全体主義』 近代の概念を理解する
	学習の目安時間・分量	毎週書き取り4ページ分(読み取りの場合は8ページ分)を範囲として学習する。								
	学習状況の確認方法	毎週小テストを実施。また、定期考査において、教科書の文章内で該当する語や漢字について問いを設ける。								
	成績評価との関係	主に観点③の点数として評価するが、観点②における内容理解等にも反映され評価に影響する。								
図書資料の活用等・探究へのつながり	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な資料を読み、図書室を利用し内容理解の一助とする。 ・関心のある領域の新書等を積極的に読む。 									

2026年度						授業の計画					
学年	教科	科目	コース	単位	担当者	学期	月	教材	内容		
2	国語	古典探究	選抜文系	3	平山			4	ノートの取り方・受け方ガイダンス 『十訓抄』大江山 (GWまでの課題:『古典の手引き』用言)	・工夫の仕方、予習について説明 ・助動詞と助詞と敬語の理解	
教科書	『古典探究』数研出版 2年次では主に「古文編・漢文編I」を扱う										
副教材	・教科書準拠学習ノート ・古典の手引きおよび定着ノート 昨年に引き続きとして ・古文単語330										
評価基準	観点① 知識・技能 古文：単語・文法・古典常識を身につけ、内容理解ができるようにする 漢文：単語・句法・歴史的背景を身につけ、内容理解につなげる					1		5	漢文は適宜行う ※小テスト：助詞 【中間考査】		
	観点② 思考力・判断力・表現力 現代語訳などができ、登場人物などの心情や作品の主題を理解する 作品がその後の文学に与えた影響を考える							6	『徒然草』花は盛りに 漢文は適宜行う 『古典の手引き』敬語 ※小テスト：敬語	・古典的感性の理解	
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 授業ノートでは、予習・復習を表現し、工夫する。ワークは直しをしっかりと行う。 小テストでは高得点を目指し、授業内では積極的に話し合い発言する。							7			
	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。									【期末考査】	※古文単語：1～150（1年次復習）
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50 + 観点②学年末50 + 観点③ 10							9	休み明け 文法単語テスト 『更級日記』東路の道の果て 『古典の手引き』助動詞	・源氏物語の影響について ・敬語の理解	
テスト・評価の内訳	観点① 単語、文法、古文常識、句法、語句などの知識					2		10	漢文は適宜行う ※小テスト：古文助動詞	・古典常識の理解	
	観点② 現代語訳、文脈に即した内容理解、表現の特徴の理解									【中間考査】	
	観点③ ①ノート提出 ②ワーク提出 ③課題(小テスト) ④授業姿勢							11	『源氏物語』光源氏誕生 『古典の手引き』助動詞	・源氏物語の影響について ・敬語の理解	
授業のねらい・進め方・注意点	典探究」では古文と漢文を深く学習する。古文や漢文を学習することで当時の人の感性を理解することができる。また、当時の人と現代人との感性を比較することで、われわれ現代人が当たり前と考えている感性を見直すことができる。そのためには、文法、単語、句形の知識を用いて、自力で現代語訳し、内容を理解する必要がある。授業では音読、ペアワーク、問題演習などの活動を通して、古文や漢文の解釈に必要な知識や技法を身につけていく。それに伴い、スケールテストにも対応できる学力を身につけていく。							12	漢文は適宜行う ※小テスト：助動詞 【期末考査】	※古文単語 181～280	
家庭学習	学習内容と進め方	古典の手引きで文法事項を確認し、問題を解き進めること。						1	休み明け 文法単語テスト 『大鏡』道長の豪胆	・敬語の理解	
	学習の目安時間・分量	単語は毎日少しずつ覚えること。古典は授業の予習を必ず行うこと。わからない語句は調べておくこと。									
	学習状況の確認方法	準拠ワークおよび授業ノートは考査の前後で確認を行う。						2	漢文は適宜行う		
	成績評価との関係	観点③の評価に加える							漢文思想		
図書資料の活用等・探究へのつながり	岩波書店の『古典文学大系』などを用いて解釈の助けとする。教科書の同作品の別の部分を見て古典文学を味わう。解釈に関わる本を読む。							3	【学年末】	※古文単語 281～330+151～180	

2026年度						授業の計画			
学年	教科	科目	コース	単位	担当者	学期	月	教材	内容
2	国語	文学国語	選抜文系	2	宮城	1	4	1『無用の人』	平成の小説を読み、内容・構成・展開を捉える。
教科書	文学国語（数研出版）							原田マハ	
副教材	入試頻出漢字TOP2500、ニューエイジ現代文完成3 現代文単語『げんたん』改訂版、小説速読トレーニング、準拠ワーク								
評価基準	観点① 知識・技能 漢字の書き取り・読み取り、語句の知識が身につけていること。 作者名・成立年代・時代背景等の文学史的知識が身につけていること。							5 問題演習 中間考査	短い文章を読み、内容や捉え、心情理解を行う。
	観点② 思考力・判断力・表現力 読解力を養い、文脈や筆者の伝えたいことを的確に捉え、記述し表現できること。 登場人物の心情を正しく読み取り、本文内容を理解すること。							6 2『山月記』	代表的な作品を読み、小説とはどのようなものかを知る。
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 ノートの内容に工夫があり、単元ごとのまとめをしっかりと行い、グループワークやペアワークに積極的に参加すること。また、読書に対する意欲を持つこと。							7 問題演習 期末考査	短い文章を読み、内容や捉え、心情理解を行う。
	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。								
考査	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50 + 観点②学年末50 + 観点③ 10					2	9	3『ナイン』	昭和後期の小説を読み、内容解釈・文体の考察を行う。
テスト・評価の内訳	観点① 語句等の知識（30点）、文学史等（10点） 選択肢（接続語、段落相互の関係、傍線部前後からの文脈・文意の読み取り、同値・逆接等の把握、等）（10点）							10 問題演習 中間考査	短い文章を読み、内容や捉え、心情理解を行う。
	観点② 演習問題・記述式 (内容理解、主張の把握、傍線部・文の言い換え、適語・適文の抜き出し脱文補充等)（50点）							11 4『山椒魚』	昭和初期の小説を読み、内容を解釈し、作品を基に考えを深める。
	観点③ 予習（5点）、感想・まとめ（5点）、 授業姿勢（ペアワーク等の姿勢も含む）（5点）、読書活動（5点）							12 問題演習 期末考査	短い文章を読み、内容や捉え、心情理解を行う。
授業のねらい・進め方・注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・3つの観点を重視し、国語力を養っていくことを主眼とする。 ・教科書を主に用いて、様々な文章を読み、教養や常識を深めていく。 ・ペアワークやグループワークを積極的に行う。 ・授業冒頭の5分は読書を行う。 								
家庭学習	学習内容と進め方	各自問題演習を進めていくこと				3	1	5『ころ』	大正の小説を読み、内容解釈し考えを深める。
	学習の目安時間・分量	1週間で2~3題解けるとよい						夏目漱石	
	学習状況の確認方法	適宜確認していく						2 問題演習	短い文章を読み、内容や捉え、心情理解を行う。
	成績評価との関係	成績に直接反映しないが、模試の成績推移を注視する							
図書資料	必要な資料を読み、図書室を利用し内容理解の一助とする							3 学年末考査	

2026年度						授業の計画			
学年	教科	科目	コース	単位	担当者	学期	月	教材	内容
2	地歴	地理総合	選抜文系	2	佐々木	1	4月	地球儀と地図	地球上の位置と地上の現象
教科書	【地総046-902】帝国書院 『高校生の地理総合』 【地図046-901】帝国書院 『新詳高等地図』								
副教材	帝国書院 『高校生の地理総合ノート』								
評価基準	観点① 知識・技能		基本的な知識を身に付け、その役割、有用性を理解しているか。地図、資料などから現代世界の姿を読み取る技能を身に付けているか。						
	観点② 思考力・判断力・表現力		世界の国々はどのように結びついているのか、世界の生活文化の多様性がどのように形成されてきたのかを、地図、資料を通して、多面的・多角的に考察し、表現しているか。						
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度		世界の多様な生活文化を尊重し、共生を図っていくことについて、主体的に追究し、課題を見いだしているか。生活の中で必要な防災・減災に向けた備えについて、主体的に追求し課題を見出しているか。						
	評価		1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施						
考查	上記考查は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。								
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する								
	1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20								
	3学期: 観点①学年末50 + 観点②学年末50 + 観点③ 10								
テスト・評価の内訳	観点①		授業で学んだ事柄について理解している。						
	観点②		地図・資料、データなどから複数の根拠をもって問いに答えることができる。						
	観点③		社会に関心を持ち、時事問題などを自ら知る姿勢を持つ。 授業への姿勢や協同作業など自ら前向きに動くことができる。						
授業のねらい・進め方・注意点	(ねらい)世界各地の生活文化の多様性について、自然環境や社会環境とのかかわりに着目しながら考察し、国際理解を深めていく。また、地域的な視点から災害と防災についての課題を考察し、安心できる社会を構築するためにどう行動するかを考えていく。 (注意点)知識の習得にとどまるのではなく、様々な地球的課題の解決に向けて、その知識をどのように活かしていくのか、また、持続可能な社会の構築にどのような知識を身に付けていたらよいかを考えながら、授業を受けてほしい。								
家庭学習	学習内容と進め方	社会情勢に関心を持ち、日々のニュースと教科書の中の事柄を結び付けて考えられるように、様々な情報に触れるよう心掛けてほしい。							
	学習の目安時間・分量	1日10分以上、新聞やテレビなどのニュースに触れる時間をとること。ネットニュースだけでなく、オールドメディアなどの媒体も活用すること。							
	学習状況の確認方法	時事ニュースに関して不定期に小テストを行う。また、時事ニュースに関するレポートを長期休暇の課題として課す。							
	成績評価との関係	提出物、課題、小テストは観点③として評価する。							
図書資料の活用等・探究へのつながり	新聞記事に関するレポート提出を課す。 図書資料の紹介を行う。								
						2	9月	世界の気候と人々の生活	生活と気候のかかわり
									雨温図・景観写真
									各気候帯
							10月	世界の産業と人々の生活	農業・工業
								世界の言語・宗教	言語・宗教の多様性
								中間考査	
							11月	生活文化の多様性と地理的環境	
								東南アジア	季節風と生活文化
								ヨーロッパ	伝統の継承と生活文化
							12月		
								期末考査	
						3	1月	自然環境と防災	日本の自然環境
									地震津波や火山活動による災害と防災
							2月		気象災害と防災
									自然災害への備え
							3月	学年末考査	

2026年度						授業の計画		※実際の進度は前後する可能性がある。	
学年	教科	科目	コース	単位	担当者	学期	月	教材	内容
2	地歴公民科	日本史探究		4	浅子	春期		教科書・図説	第1章 日本文化のあけぼの 第2章 古墳とヤマト政権 ～東アジア諸国との交渉～p.27
教科書	『詳説日本史』(山川出版)								
副教材	『日本史重要語句Check List』(啓隆社)・『図説日本史通覧』(帝国書院)								
評価基準	観点① 知識・技能 用語や背景を知る。理解し、覚える。：我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。					1	4	教科書・図説	第2章 古墳とヤマト政権 第3章 律令国家の形成 第4章 貴族政治の展開 ～国際関係の変化～p.65
	観点② 思考力・判断力・表現力 問の答えを考える。資料を比較し、より適切な答えを探る。調べ考えたものを表現する。：我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。						5		
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 問の答えや、関連する用語、新たに生まれた問を粘り強く自ら調べ、考える。自分自身の学習を振り返り調整する。：我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。						中間考査	都道府県名	(Check List 3.～14.)
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 問の答えや、関連する用語、新たに生まれた問を粘り強く自ら調べ、考える。自分自身の学習を振り返り調整する。：我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。						5		第4章 貴族政治の展開 第5章 院政と武士の躍進 第6章 武家政権の成立 第7章 武家社会の成長 ～室町幕府～p.115
考査	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。						7		
							期末考査	都道府県名	(Check List 15.～25.)
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50 + 観点②学年末50 + 観点③ 10					夏期			文化史
テスト・評価の内訳	観点① ※漢字の語句は漢字で解答すること 教科書・副教材・授業で出てくる用語の記述や短文の選択等						9	教科書・図説	第7章 武家社会の成長 第8章 近世の幕開け 第9章 幕藩体制の成立と展開 ～幕府と藩の機構～p.175
	観点② ※漢字の語句は漢字で解答すること 正誤判定問題・図や表、資料から読み取る問題・論述問題等						10		
	観点③※粘り強い取り組みを行おうとする側面、自らの学習を調整しようとする側面 普段の授業への取り組み・提出物・長期休みの課題等						中間考査	旧国名	(Check List 26.～37.)
授業のねらい・進め方・注意点	ねらい・社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。 進め方・注意点・学習者は、自ら調べ、考え、判断し、行動する力(知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体的に学びに向かう態度)を身につける。「日本史で学ぶ」を意識する。・学習者は、多様な人と協力し、課題を乗り越えていく力を身につける。(協調性やリーダーシップ等)・学習者は、良識ある大人として行動する。						10	教科書・図説	第9章 幕藩体制の成立と展開 第10章 幕藩体制の動揺 第11章 近世から近代へ ～公武合体と尊攘運動～p.227
家庭学習	学習内容と進め方	①『日本史重要語句Check List』(啓隆社)の問題を解く。赤字部分も暗記する。 ②授業中に意味の分からない言葉があった際は、自分で調べておく。					期末考査	旧国名	(Check List 38.～50.)
	学習の目安時間・分量	①授業で取り扱った範囲は次の授業までに解いておくこと。(2～3時間の授業で見開き1ページ分となる。)授業で扱っていなくても指定された範囲があれば取り組む。年間を通して繰り返す。②自分の力や目標に合わせて予習復習する。				3	1	教科書・図説	第11章 近世から近代へ 第12章 近代国家の成立 第13章 近代国家の展開 ～桂園時代～p.266
	学習状況の確認方法	定期考査において出題し、定着状況を確認する。また、不定期に授業内でも取り上げる。繰り返し取り組むことで、模試や入試に対応できる力の養成を図る。					2		
	成績評価との関係	定期考査において出題することで成績に加える。					3		
図書資料の活用等・探究へのつながり	・授業に関連する図書資料を紹介する。(例)小和田哲男『知識ゼロからのCGで読む戦国時代』幻冬舎など ・調べ学習・発表、レポート課題で、書籍や新聞を活用する。						学年末考査	内閣総理大臣の氏名 伊藤博文～鈴木貫太郎まで (Check List 51.～60.)	
						飛鳥文化以降の文化史(〇〇文化)は講習で取り扱う。 映像授業等を利用したの自学も勧める。			

2026年度						授業の計画				
学年	教科	科目	コース	単位	担当者	学期	月	教材	内容	
2	地歴公民科	世界史探究		4	内田	1		教科書		
教科書	『詳説世界史』(山川出版)							副教材	第1章 文明の成立と古代文明の特質	
副教材	山川 詳説世界史図録									
	世界史探究 詳説世界史 授業用 整理ノート								第2章 中央ユーラシアと東アジア世界	
評価基準	観点① 知識・技能 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。						中間考査		第3章 南アジア世界と東南アジア世界の展開	
	観点② 思考力・判断力・表現力 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。							5	第4章 西アジアと地中海周辺の国家形成	
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。							6	第5章 イスラム教の成立とヨーロッパ世界の形成	
考査	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。							7	第6章 イスラム教の伝播と西アジアの動向	
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50 + 観点②学年末50 + 観点③ 10					2		教科書		
テスト・評価の内訳	観点① 授業で学んだ歴史的出来事について理解ができているか。							9	副教材	第7章 ヨーロッパ世界の変容と展開
	観点② 資料・史料やデータなどから複数の根拠をもって問いに答えることができる。									第8章 東アジア世界の展開とモンゴル帝国
	観点③ 授業への姿勢や協同作業など自ら前向きに動くことができる。							10		第9章 大交易・大交流の時代
授業のねらい・進め方・注意点	古代から近世までの世界史の基礎・基本的な事項を学ぶ。 また、暗記ではなく、歴史に関する知識を深め、異なる地域を比較・関連付けて考察する力をつける。									第10章 アジアの諸帝国の繁栄
									11	
家庭学習	学習内容と進め方	大学入試問題の演習と解説プレゼン資料の作成を毎日進める 連休などにスタディサブリの動画を配信するので連休は自学自習				3		教科書		
	学習の目安時間・分量	1日20分。問題演習やプレゼン資料作成、動画視聴や復習など。						1	副教材	第13章 イギリスの優位と欧米国民国家の形成
	学習状況の確認方法	プレゼンの内容で理解度を確認。動画については視聴しているかどうか確認。						2		第14章 アジア諸地域の動揺
	成績評価との関係	観点③の評価に加える。プレゼン内容や動画視聴は確認テストまで行っているかどうか。								第15章 帝国主義とアジアの民族運動
図書資料の活用等・探究へのつながり	分からないことや調べたいことがあれば適宜。									第16章 第一次世界大戦と世界の変容

2026年度						授業の計画				
学年	教科	科目	コース	単位	担当者	学期	月	教材	内容	
2	数学	数学II	進学文系	4	伊東	1	4	教科書・副教材	第1章 式と証明 第1節 式と計算 第2節 等式・不等式の証明	
教科書	数研出版 最新数学II									
副教材	数研出版 3ROUND 数学II									
評価基準	観点① 知識・技能		いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。							
	観点② 思考力・判断力・表現力		数の範囲や式の性質に着目し，等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力，座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し，方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり，図形の性質を論理的に考察したりする力，関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力，関数の局所的な変化に着目し，事象を数学的に考察したり，問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。							
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度		数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。							
考查	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考查は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。					2	9		第4章 三角関数 第1節 三角関数	
評価	定期考查ごとにテスト100点、観点③10点を加算し、満点に対して取得した点数の割合で評価する。						10		第2節 加法定理	
テスト・評価の内訳	観点①		教科書、問題集の基本的な問題の類題から出題							
	観点②		教科書、問題集の応用的な問題の類題から出題							
	観点③		普段の授業姿勢、課題の提出より意欲や数学的思考から判断							
授業のねらい・進め方・注意点	ねらい) いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。 注意点) ノート・副教材(3ROUND)は毎時間準備してください。数学は毎日少しずつでも問題を解いてゆかねばなりません。課題または小テスト等については担当者の指示に従い、日々の復習に努めてください。						11		第5章 指数関数と対数関数	
家庭学習	学習内容と進め方	授業のあったその日に学んだ内容の復習を行う。また、3日後、1週間ごと間隔をあげて復習を行うことで内容に対する理解度が向上する。				3	1	教科書・副教材	第6章 微分法と積分法 第1節 微分法	
	学習の目安時間・分量	その日に学んだ内容はその日に復習を行うことを目的とするため、短い時間でも構わない。ただし、解説を見て理解ができ、解答を作り上げることができる生徒はごく少数のため、必ず問題を解き、自分の解答が正しいのか間違っていたのか確認し、振り返りをする。					2		第2節 積分法	
	学習状況の確認方法	教科書や問題集の復習についていつやったのか、できたのかを記録して客観的な視点を持つことが重要。また、課題の提出やスタディプラスへの書き込みにより、理解度の確認や継続性の認識を意識する。					3			
	成績評価との関係	計画的かつ継続的に学習を行うことができれば数学の成績向上だけでなく、論理的思考能力を得ることができ、将来に向けて必要な力量を得る足掛かりになるため、成績評価に左右されることなく、学習に励んでいただきたい。								
図書資料の活用等・探究へのつながり	以下の書籍に関連事項が書いてありますので、興味関心のある生徒は触れてみてください。 聖女の救済・東野圭吾 フェルマーの最終定理・サイモンシン									

2026年度						授業の計画			
学年	教科	科目	コース	単位	担当者	学期	月	教材	内容
2	理科	化学基礎	選抜文系	2	加瀬	1	4	2章1・2節 復習	それぞれの化学結合の特徴と、その化学結合からなる物質とその性質を理解する。
教科書	実教出版 化学基礎academia						5 2章3節 1金属結合		
副教材	アクセスノート化学基礎						2章4節 1化学結合と物質		
評価基準	<p>観点① 知識・技能</p> <p>日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について基本的な概念や原理・法則などを理解している。科学的な探究に必要な観察、実験などの技能を身に付けている。</p> <p>観点② 思考力・判断力・表現力</p> <p>物質とその変化から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。</p> <p>観点③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <p>物質とその変化に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。</p>						3章1節 1原子量と分子量・式量	原子量・分子量・式量など、物質量の基本的事項を理解する。	
考查	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考查は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。						6 3章1節 2物質量	物質量の基本事項、物質量と溶液の濃度の関係を理解する。	
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50 + 観点②学年末50 + 観点③ 10					2	9 3章1節 4化学反応式	化学反応式と量的関係を理解する。	
テスト・評価の内訳	<p>観点①</p> <p>教科書、問題集の基本的な知識にかかわる問題の類題から出題</p> <p>観点②</p> <p>教科書、問題集の応用的な問題の類題から出題</p> <p>観点③</p> <p>課題の提出、授業態度、小テスト</p>						10 3章2節 1酸と塩基	酸と塩基について、日常生活と関連付け、酸と塩基の性質などの基本事項を理解する。	
授業のねらい・進め方・注意点	<ul style="list-style-type: none"> 授業のすべてが授業者による内容の解説にならないように配慮する。 知識の詰め込みではなく、日常生活でも論理的思考が出来るように促す。 毎授業の終わりに、学習の自己調整についての考えを整理する時間をつくる。 <p>※授業中に理解できるように、重要などころなどは集中して取り組みましょう</p>						2水素イオン濃度とpH		
学習内容と進め方	①授業の内容をしっかりと復習しましょう。(授業後や間隔をあけると良い) ②副教材でしっかりとアウトプットしましょう。(テストまでに2周以上取り組むようにしましょう)						11 3章2節 3中和反応と塩の生成	中和反応について理解し、日常生活での酸・塩基反応を考察する。	
学習の目安時間・分量	授業内容の復習は短時間でも構わない。教科書やノート・プリントなどを用いて授業内容を思い出しましょう。副教材に取り組むときは時間ではなく、問題数を決めて取り組みましょう。						12 4中和滴定	酸化と還元の定義を理解する。また、酸化還元反応が電子の授受であることを理解する。	
学習状況の確認方法	適宜小テストを実施する。また、定期考査ごとの提出により学習状況を確認する。						3章3節 1酸化と還元		
家庭学習	成績評価との関係 観点③へ入れる。						2酸化剤と還元剤		
図書資料の活用等・探究へのつながり	必要に応じて各自で活用しましょう。						3 3章3節 2酸化剤と還元剤	酸化剤と還元剤の反応や、酸化還元反応と日常生活や社会生活とのかわり、実用電池について理解する。	
							2		3酸化還元反応の起こりやすさ
							3		4身の回りの酸化還元反応

2026年度						授業の計画			
学年	教科	科目	コース	単位	担当者	学期	月	教材	内容
2	保健体育	保健	選抜文系	1	保健体育科	1		必要があれば提示	3単元 01.ライフステージと健康 02.思春期と健康 03.性意識と性行動の選択 04.妊娠・出産と健康 05.避妊法と人工妊娠中絶 06.結婚生活と健康
教科書	現代高等保健体育（大修館）								
副教材	現代高等保健体育ノート（大修館）								
評価基準	観点① 知識・技能 教科書・副教材を正確に理解し、答えることができる。						4		
	観点② 思考力・判断力・表現力 観点①で習得したことを元にグループ内活動やその他取り組みにおいて、生かすことができる。						5		
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 授業内活動において積極的に発言することができる。						6		
7									◎ノート提出 ☆期末考査
考査	1学期期末・2学期期末・学年末の計3回実施 上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。								
2						2		必要があれば提示	4単元 01.大気汚染と健康 02.水質汚濁・土壌汚染と健康 03.環境と健康にかかわる対策 04.ごみの処理と上下水道の整備 05.食品の安全性 06.食品衛生に関わる活動
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①期末50x80% + 観点②期末50x80% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50 + 観点②学年末50 + 観点③ 10								
テスト・評価の内訳	観点① 授業内で取り組んだ基本的内容を基にした問題						9		
	観点② 授業内で活用した統計データやグラフから読み取る問題						10		
	観点③ ノートの取り組み及び提出状況（その他プリント含） レポート提出						11		
授業のねらい・進め方・注意点	○環境問題において知識理解を深めるとともに今後の生活の中で学んだことを理解して日々の生活に生かせるようにする。 ○教科書・ノートを中心に授業を行い、プリントやビデオ等の教材も使用する。授業内容によって自宅学習をすることもある。 ○テストについては各学期末に行う。 ○各学期にノートの確認を行う。								
家庭学習	学習内容と進め方 右記、授業計画の内容をもとに授業を実施する。分からない内容があれば、各自で復習すること。					3	1	必要があれば提示	2単元 01.事故の現状と発生要因 02.安全な社会の形成 03.交通における安全 04.応急手当の意義とその基本 05.日常的な応急手当 06.心肺蘇生法
	学習の目安時間・分量 教科書やノートの内容を理解するまで。						2		
	学習状況の確認方法 定期考査もしくは授業内でノートの提出。 ※担当者からの指示を確認すること。						3		
	成績評価との関係 観点3								◎ノート提出 ☆期末考査
図書資料の活用等・探究へのつながり									

2026年度						授業の計画				
学年	教科	科目	コース	単位	担当者	学期	月	教材	内容	
2	外国語	EC II	選抜	4	猪瀬	1	4		Vertexは左記の進め方	
教科書	FLEX English Communication II (増進堂)							【1学期中間】 Vertex Unit 1-3 リンケージ 7-23	リンケージは週に一度、複数講を進める 考查ごとに初見問題も扱う	
副教材	大学入試 英語長文読解問題集 Vertex Level 2 リンケージ英語構文 (旺文社)									
評価基準	観点① 知識・技能 長文：扱った長文の表現をoutputできる、文章展開のキーワードがわかる 構文：各章で扱う構文を理解している						5	中間考查		
	観点② 思考力・判断力・表現力 長文：各パラグラフのTopic及び内容を理解し、Summaryが言える 構文：整序英作文および英作文ができる 応用問題：授業で習ったことを初見問題で応用できるかどうかをチェックする						6	【1学期期末】 Vertex Unit 4-7 リンケージ 24-43		
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 英語アプリ レシピの取り組み 授業内実施の単語テストの取り組み						7	期末考查		
	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考查は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。									
2						2	9	【2学期中間】 Vertex Unit 8-10 リンケージ 44-60	同上	
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50 + 観点②学年末50 + 観点③ 10						10			中間考查
テスト・評価の内訳	観点① Target1900、リンケージより出題							【2学期期末】 Vertex Unit 11-14 リンケージ 61-80		
	観点② Vertex、初見長文問題、リンケージ応用問題						11			期末考查
	観点③ 英語アプリ レシピの取り組み 授業内実施の単語テストの取り組み						12			
授業のねらい・進め方・注意点	言語習得の基本「英語を理解すること(input)」「理解した英語を内在化すること(intake)」「内在化した英語を使い発信すること(output)」のうち、inputとintakeを重点的に授業を進める。 【Step 1: 理解】①リスニング(1回)→②速読→③精読 【Step 2: 内在化】音源付き音読(Reading Aloud, Overlapping)、音源なし音読、(シャドーイング) 【Step 3: 発信】要約・意見を伝える (Booster Bookを使用) *Booster Bookは精読の補助として使う *Listening, Reading, Speakingの3技能を徹底的に鍛えることにより、どのような入試問題にも対応できる力をつける *リンケージ英語構文は「読める」レベルに到達するための橋渡し									
家庭学習	学習内容と進め方 授業内で精読したものを文構造を考えながら復習する。覚えていない単語の意味などを文の中でどう使われているかを考えながら覚える。文章の意味をパラグラフ単位で考えながら音読することで英語の内在化を図る。					3	1	【学年末】 Vertex Unit 15-18 リンケージ 81-100	同上	
	学習の目安時間・分量 最低でも30分程度は実施。授業当日・週末・考查前など、内容を忘れそうになった頃に復習を繰り返すことが望ましい。						2			学年末考查
	学習状況の確認方法 音読の実施状況はレシピの配信課題で確認。その他授業内でTarget1900の確認テストを適宜実施。また、定期考查で定着度を測る。						3			
	成績評価との関係 観点③の評価に加える。									
図書資料の活用等・探究へのつながり	必要に応じて各自で活用する。									

2026年度						授業の計画			
学年	教科	科目	コース	単位	担当者	学期	月	New Frame	Bright Stage
2	外国語	論理・表現II	選抜文理	3	久保田	1	4	STEP 01 時制	第1章 時制
教科書	FACTBOOK English Logic and Expression II(桐原書店) ※授業では使いません							STEP 02 態	第2章 態
副教材	英文法[強化]演習 New Frame 650 New Edition 及び 同 Mastering Aid (桐原書店)							STEP 03 助動詞	第3章 助動詞
評価基準	観点① 知識・技能 New Framの問題を、解答根拠まで含めて授業説明を通じて理解できている。						5		
	観点② 思考力・判断力・表現力 Bright Stageの問題を、自分で考え、解き、解説を読んで理解できる。							STEP 04 不定詞と動名詞	第16章 動詞の語法 469～500
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 ・授業や家庭学習を通じて、「自分だけのノート」を作れている。 ・Bright Stageを授業外で、自分のペースで学習している。							STEP 05 不定詞	第4章 不定詞
							6	STEP 06 動名詞	第5章 動名詞
								STEP 07 分詞	第6章 分詞
考查	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考查は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。					2	9	STEP 08 動詞の語法	第16章 動詞の語法
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する							STEP 10 仮定法	第9章 仮定法
	1・2学期: 観点①(中間50+期末50)+ 観点②(中間50+期末50)+ 観点③ 20							STEP 11 比較	第7章 比較
	3学期: 観点①学年末50 + 観点②学年末50+ 観点③10						10	STEP 12 代名詞	第12章 代名詞
テスト・評価の内訳	観点① ・New Frame問題のうち、文法4択問題。 ・Bright Stage問題のうち、文法4択問題。							STEP 13 形容詞と副詞の語法	第17章 形容詞の語法 第18章 副詞の語法
	観点② ・New Frame問題のうち、英作文など、思考力や表現力を問う問題 ・Bright Stage 問題のうち、英作文など、思考力や表現力を問う問題 ・その他、初見問題						11	STEP 14 イディオム[形容詞・副詞関連]	第21章 形容詞中心のイディオム 第22章 副詞中心のイディオム
	観点③ ・毎週火曜の朝に実施する、Bright Stageテストの取り組み状況 ・適宜実施する、家庭学習復習テストの取り組み状況							STEP 15 会話表現	第25章 会話表現(場面別)
授業のねらい・進め方・注意点								STEP 16 関係詞	第8章 関係詞
	・テキストに直接書き込んでよい。(フリクションの複数色ペンを推奨) ・テキストを、「自分オリジナルの参考書」に仕上げよう						12	STEP 17 接続詞	第14章 接続詞
家庭学習	学習内容と進め方 ・New Frameの指示された範囲を、解答根拠も考え、メモにして予習する。 ・New Frameの復習問題(オンラインで配信)に取り組む ・Bright Stageの小テスト範囲を、解説も読みながら自分なりに理解する。					3	1	STEP 18 疑問と否定	第10章 疑問文と語順
	学習の目安 時間・分量 時間がどれくらいかかるかは、自分次第。きちんと調べれば、英文法はいくら時間をかけてもいい。							STEP 19 名詞と冠詞の語法	第19章 名詞の語法
	学習状況の確認方法 ・小テストの類はオンラインでチェックします。 ・テキスト類は画像提出もしくは直接回収にて。						2	STEP 20 イディオム[名詞関連]	第23章 名詞中心のイディオム
	成績評価との関係 観点③ 1学期20点 2学期20点 3学期10点							STEP 21 前置詞と群前置詞	第15章 前置詞 第24章 群前置詞
利用等・探究へのつな	1年時に購入した「SKYWARD 総合英語」をどれくらい活用しているでしょうか。あれば、英文法を詳しく網羅している、立派な「本」です。							STEP 22 その他の重要文法事項	第11章 否定・省略・倒置 第13章 主語と動詞の一致
							3	STEP 23 会話表現②	第26章 会話表現(機能別)

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	家庭	家庭基礎	進学文系	2	矢部・青柳
教科書	ウェルビーイングにつなぐ家庭基礎 教育図書				
副教材	家庭科55デジタル+資料集+食品図鑑+デジタルコンテンツ 教育図書				
評価基準	観点① 知識・技能 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な知識を習得するとともに、それらに係る技能を身に付けられたか。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見だし、課題設定、解決策の構想、実践の評価・改善等、生涯を見通して課題を解決する力が養われたか。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとする気持ちを育むとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度が養われたか。				
考查	1学期期末・2学期期末・学年末の計3回実施 上記考查(実技含む) 全て、観点①45点+観点②45点+観点③10点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2・3学期:観点①(筆記35点+実技10点) + 観点②(筆記35点+実技10点) + 観点③ 10点 ※実技課題は学期によって異なるものが出題される。				
テスト・評価の内訳	観点① 筆記点(教科書、資料集、プリント等から出題)、実技点(野菜の切り方テスト等)				
	観点② 筆記点(教科書、資料集、プリント等から出題)、実技点(作品等)				
	観点③ ロールプレイング発表、課題・レポート提出等				
授業のねらい・進め方・注意点	家庭科では、生涯を通してよりよく生きるために必要な知識・技能を習得し活用できる力の育成とよりよい社会の構築に向けて主体的に生活を創造する力の育成を目指しています。 生徒一人ひとりが自ら生活をつくる主体であることを実感できるように、様々な分野に着目しながら授業を展開したいと考えています。				
家庭学習	学習内容と進め方	教科書の特性として、毎日の生活での経験や体験(自分が日々感じていること)が学びにつながる。日頃の興味・関心・疑問はその都度、消化・解決しながら過ごしてほしい。			
	学習の目安時間・分量	卒業後、自立して生活するには特に衣・食・住に関しては、他者に助けを求めず、自力で解決することが大切である。そのためには繰り返し経験を積むことが望ましい。			
	学習状況の確認方法	生活の中で困難な場面に遭遇した時に、習得した知識・技術が発揮できれば良いと考える。			
	成績評価との関係				
図書資料の活用等・探究へのつながり	・暮らしの手帖 ・栄養と料理				

学期	月	教材(教科書)	内容
1	4月	生涯の生活設計	<ul style="list-style-type: none"> 人は一生発達する これからのライフイベント 人生の課題を解決しよう
	5月	青年期の自立と家族・家庭	<ul style="list-style-type: none"> 自立への一歩を踏み出そう 家族 家庭とは? ※冊子(お部屋探し&一人暮らしガイド)使用
	6月	住生活と住環境	<ul style="list-style-type: none"> 住まいの役割 平面図の読み方 これからの快適な暮らし方 ※冊子(お部屋探し&一人暮らしガイド)使用
	7月	子どもの生活と保育	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの成長の特徴 調理実習(幼児のおやつ) 親の役割と子どもの生活習慣
2	9月	高齢期の生活と福祉	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の心身の変化 高齢化の現状と課題
	10月	食生活と健康①	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣と食事 現代の食事 栄養素の分類と食品
	11月	食生活と健康②	<ul style="list-style-type: none"> 食品の選び方(加工食品の表示) 調理実習(郷土料理) テーブルマナーを知る
	12月	食生活と健康③	<ul style="list-style-type: none"> 調理実習(クリスマスケーキ) 食文化を継承しよう
			期末考查
3	1月	消費生活と経済計画①	<ul style="list-style-type: none"> 消費者と意思決定 契約の重要性 多様化する支払方法と返済方法
	2月	消費生活と経済計画②	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな消費者問題 消費者を守るしくみ
	3月	学年末考查	<ul style="list-style-type: none"> 消費者の権利と責任 消費生活と経済のつながり

二年次 総合的な探究の時間 シラバス

活動の指針	<p>二年次では、一年次に身につけた基礎をもとに、自らの興味・関心に基づく個人探究を行い、自身や学問分野への理解を深める。日常のゼミ活動や中間発表、最終発表会等で得たフィードバックを生かし、探究内容の深化を図る。三学期には、自身の進路につながる探究テーマを考える。</p> <p>一学期 自らの興味・関心に基づく個人探究のテーマ(課題)を設定する。</p> <p>二学期② 探究成果発表会に向けて個人探究を進める。</p> <p>三学期 自身の進路につながる探究テーマ(課題)を設定する。</p>
教材 教具	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> iPad <input type="checkbox"/> Benesseキャリアナビ・プログラム(オンライン) <input type="checkbox"/> その他必要に応じて書籍など資料を紹介、配布する。
一学期	<p>自らの興味・関心に基づく個人探究のテーマを設定する。</p> <p>授業の流れ(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 課題設定の方法を確認する。 2. 自分の興味・関心に向き合う。 3. 図書資料を活用し、予備調査を行う。 4. 自分の興味・関心に基づき課題設定を行う。ゼミ活動を始める。 5. 情報収集の方法を知る・選ぶ。図書資料による文献調査は必ず行う。 6. 情報収集を行う。アンケート/インタビュー/実験/観察/現地調査を必ず行う。
夏休み	情報収集を継続する。スライドを作り始める。
二学期	<p>探究成果発表会に向けて個人探究を進める。ゼミ活動で内容を深化させる。</p> <p>授業の流れ(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 整理分析する。 2. まとめを行う。成果物作成の際は、参考・引用文献を必ず記載する。 3. 中間発表(スライド)を行い、フィードバックを得て振り返りを行う。 4. フィードバックを元に改善や、追加調査を行う。 5. 論文の作成方法を理解し、論文を作成する。 6. ゼミ内で論文を添削する。 7. 可能であれば、外部コンテストや発表会に挑戦する。

三学期	<p>探究成果発表会を行う。自身の進路につながる探究テーマ(課題)を考える。</p> <p>授業の流れ(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 探究成果発表会に向けてポスター作成を行う。 2. 3学期中に探究成果発表会を行う。 <p>【探究成果発表会について】</p> <p>同学年・低学年生徒、教職員、保護者、大学教授等に向けて行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 発表会で得たフィードバックをもとに、論文を修正し、完成させる。 4. 自身の進路につながる探究テーマ(課題)を考える。
春休み	引き続き、自身の進路につながる探究テーマ(課題)を考え、三年次につなげる。

授業のねらい・注意点

ねらい	探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、 自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成する。
注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的・対話的で深い学びを行う。ゼミ活動を行いながら協働的に学ぶ。 ・自己を知り、社会を知り、将来につなげる。 ・記録を残し、成果物を作成する。

個人探究における「協働的に学ぶ」とは？

<p>※二年次は個人での探究の機会が増えるが、ゼミ活動や発表などを通じた「協働的に学ぶ」機会があるので、その際には①～⑦を実践できるように心がける。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①ゼミ内で、複数名のグループに分かれる。 ②協働的に学ぶ際の注意事項や評価指標を全員で確認しておく。 ③話し手は〇〇分で意見主張→聞き手は、質問や+αのアイデアを出す。 ④グループ内で③を繰り返し、多角的・多面的な視野や多様な価値観を得る。 ⑤話し手は、不足している視点を改善したり、追加で「情報収集」したりする。 ⑥改善した上で、また③～⑥を繰り返していく。
--

注意事項	評価指標
<p>個々の発言量・機会を均等にする。</p> <p>質問やアイデアがあることを本人に伝える。</p> <p>その際は、非難にならないように注意。</p> <p>良いところも伝える。</p> <p>会話の流れを記録し、さかのぼれるようにする。</p>	<p>協働的に学ぶ意義は、「物事を多面的に視る」という点である。個人探究においても、「気づき」を促すアドバイスを送り合い、他者の学びに貢献することが重要。</p>